2024年度

日中青年会議

活動報告書

2024年7月23日～7月29日

於 Li Po Chun United World College of Hong Kong

監督者挨拶

Adrian Kwong, LPC UWC Outreach Manager

The 16th Sino Japan Youth Conference (SJYC) was held at Li Po Chun United World College of Hong Kong (LPCUWC) in July 2024. As staff supervisor of this event, I would like to acknowledge our sponsoring partners, as well as the organizing team of students and alumni, for bringing about 7 days of meaningful interactions and co-curricular learning. Founded in 2008 under decidedly different global contexts, SJYC remains a valuable undertaking to this day; as humanity's relationship with truth evolves and our sensibilities increasingly favour performative elements, SJYC offers chances for learning through introspection and critical thinking. We hope this celebration of peace and diversity can be sustained in the coming years through the combined efforts of students and supporters who share our vision.

創立者挨拶

横浜国立大学　国際社会科学研究科・経済学部　准教授　古川知志雄

多くの関係性は「対立」と「協力」の二項対立として捉えられがちですが、実際には、すべての関係性に「対立性」と「協力性」の両側面があります。多様複雑な隣国関係に向き合うことは、対立に目をつむり協力のみを語ろうとすることではありません。ニュースで注目される対立の陰にも、相互破壊を回避するための地道な協力の歩み寄り、異文化交流事業で語られる協力の中にも、実は相いれない文化や意図の対立があるでしょう。日中青年会議は、日中間の歴史や文化、政治に向き合いながら、その対立的要素の中に協力的要素を見出し、かつ協力的関係に潜む対立的関係にも目を背けないことを目指してきました。

高校生・大学生が運営主体となることは、みなが友好的な関係の中すべての意思決定をできることではなく、ときに考えや価値観の対立とも向き合わなければいけません。そのような中、共通の価値を見出し、自分の限界を見極め、考えを共有すること。ときに、自分が何を大切にしているのか、判断軸を問うて深く内省すること。

本プログラムは、ユナイテッド・ワールド・カレッジ香港校に在学していた2006〜2008年当時、アメリカとイラクの間の若者交流を促すプログラムをゼロから立ち上げた友人からインスピレーションを受けたことがきっかけでした。「若くてもこのようなプログラムもできるんだ！」という希望が、16年を越える歳月に耐え、オーガナイザーの熱気と真摯さとして根づいていること。今年2024年度、あらためて香港を訪問し、そのように胸の奥から感じられたことは深い歓びでありました。本年のオーガナイザー、支援してくださった先生方、今までのオーガナイザーや先生方、みなの地道な努力に改めて感謝と敬意を表したいと思います。

代表挨拶

日中青年会議 運営日本チーム　リージョナルコーディネーター
高橋真衣

　第16回日中青年会議の開催にあたり、日本・中国本土・香港・台湾の4地域から総勢52名の参加者を迎え、香港の地で7日間にわたる濃密な交流と学びの時間を持てたことを、心から嬉しく思います。

　国際関係がますます複雑化する現代において、日中青年会議が果たすべき役割とは何か。政治的な緊張が高まる中で、私たちは「青年だからこそできること」を真摯に考え続けてきました。政治の専門家ではない私たちが、日中関係の難しさにどう向き合うべきか。その問いへの答えとして見えてきたのは、若者同士の率直な対話と、互いを理解し合う機会の価値でした。国家や政治、価値観の対立の中にあっても「ひと」としての繋がりを真摯に見つめることは、分断を食い止める杭になるのではないか。国民としてではなく、個人として相手と向き合うことはきっと、単純化された対立の複層性に目を向け、憎しみの感情に歯止めをかけることにつながるはずです。

　今日の日本社会では、90%以上の日本人が中国に対する印象を「良くない」「どちらかといえば良くない」と回答するなど（2022年度 日中共同世論調査）、対中感情の悪化が指摘されています。中国に対する不信が広がっている中でこそ私たちは、若者同士の相互理解への試みの重要性をかつてないほどに強く信じています。

　日中青年会議は、そこに集まる「ひと」にこそ価値があります。日中の平和を築きたいという志を共有する青年たちが集う場には、温かい友情とエネルギーが満ち溢れています。地域や価値観の違いを乗り越え、お互いを理解し合おうと努力する参加者の姿に、私は大きな希望を感じています。

　このような意義ある場を提供できたのも、多くの方々の温かいご支援とご協力のおかげです。ここに、財団の皆さまをはじめ、これまで私たちを支えてくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。今後とも、末永いご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

目次

1．はじめに …… 5

2．日中青年会議とは …… 6

3．今年度のテーマ …… 8

3．運営計画 …… 9

4．スケジュール …… 11

5．プログラム内容 …… 12

6．アンケート・参加者の声 …… 20

7．収支報告 …… 22

8．おわりに …… 24

はじめに

概要

事業名：2024年度 日中青年会議 / Sino-Japan Youth Conference 2024
事業開催期間：2024年7月23日～2024年7月29日
事業開催地：中華人民共和国　香港特別行政区
事業実施場所：ユナイテッド・ワールド・カレッジ 香港校 / Li Po Chun United World College of Hong Kong
事業主催：日中青年会議委員会
監督者：Adrian Kwong (Li Po Chun United World College of Hong Kong Administrative Officer)

協力団体

助成金・寄付（敬称略）：
公益財団法人　双日国際交流財団
公益財団法人　東華教育文化交流財団
その他活動協力：
Li Po Chun United World College of Hong Kong

参加者

日中青年会議委員会 運営：24名
（日本 8名　中国本土 7名　香港 4名　台湾 5名）

参加者：52名
（日本 18名　中国本土 18名　香港 10名　台湾 6名）

日中青年会議とは

沿革

日中青年会議は、2009年に、当時 UWC 香港校 (LPC) の学生であった古川知志雄ら高校生有志によって設立されました。「かつて政冷経熱と言われた日中間の信頼基盤の弱さを克服する」ことを目的に、日中の架け橋となることを目指して始まったのが、今の日中青年会議です。

UWCとは、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じて国際感覚豊かな人材を養成することを目的とする国際的な民間教育機関です。80カ国以上の国から集まる生徒とともに、平和や環境保護、人権等の問題に対して、多くの議論が行われます。現在までに、イギリス、カナダ、イタリア、アメリカ、香港、ノルウェー、オランダ、ドイツ、日本等、世界各地に18のカレッジ（高校）が開校されています。2022年、2024年と、二度もノーベル平和賞にノミネートされるなど（*1)、平和に対する貢献が高く評価されてきました。

そんなUWCの一つである香港校では、中国人と日本人の高校生が寝食をともにしながら、お互いの問題について話し合う機会が多くあります。また、学校全体としての日中問題に対する関心も高く、例年日中関係の問題に関するGlobal Issue Forum が開催されています。

2009年設立時から、新型コロナウイルスによるオンラインでの実施期間も挟みながら、16年間止まることなく、日中相互理解の機会を中高生に提供し続けています。

*1　参考：UWCLPC
https://www.lpcuwc.edu.hk/post/uwc-nominated-for-the-nobel-peace-prize

会議理念

批判的思考力と相互尊重を兼ね備えた、
建設的な未来を共に創る日中の親善大使を育成する。

批判的思考力

1.自己を振り返る力

当会議では、他者の意見に対して批判的になるだけでなく、自らの主張や価値観に対しても疑問を持ち、客観的に見直すことのできる場を提供しています。

2. 異なる意見を受け入れる柔軟な思考の実践

私たちは柔軟性を持って相手の視点に立つ能力を重視しており、ディスカッションを通じて、自らの考えを大切にしながらも相手の立場や文化的背景を理解しようとする姿勢を奨励しています。

3. 情報に対する批判的視点

日中間の異なる価値観を尊重しながらお互いに歩み寄るために、普段から私たちが受け取る情報に対して批判的に見る能力を育成します。

相互尊重

1.建設的な未来への対話の場の提供

会議を通じて参加者は、多様な意見や価値観に触れながら、相互理解を実現していきます。異なる地域から集まった仲間たちと寝食を共にすることで、参加者は、他者を異国の人間としてではなく、 個人として見ることができるようになります。この視点の変化は、政治的・国民的なステレオタイプを取り除き、真の意味での相互尊重をもたらします。

2. 異なる文化・価値観の学び

本会議では、中国本土・台湾・香港の様々な文化や歴史に触れることができます。様々なセッションを通して各地域の理解を深めるのはもちろんのこと、実際にその文化で育った友人に話を聞くことで、それらをより身近に感じることができます。また、開催地である香港の文化についても、様々な体験を通して深く学びます。

今年度のテーマ

Identity

今年は「アイデンティティ」を中心的なテーマに据えて本会議を企画しました。
アイデンティティという複雑な概念を、すべてのセッション・アクティビティを通して少しずつ異なる切り口から紐解いていく一週間となっています。

私たちは、以下の理由・目的を持って今年度のテーマを決定しました。

個人への焦点

個人に焦点を当てることによって、偏見を捨てて「友人」に眼差しを向けられる会議を目指しました。政治的・文化的・社会的な違いを超え、他地域の高校生との草の根の繋がりを強化することが、4地域での平和への最短距離であると考えています。
また、地域だけでなくあらゆる面で自分と差異を持つ「個人」との対話を通して、地域という単一化・一般化された視点での差異認識に疑問を投げかけることも目的としています。

アイデンティティの探求

全く異なる文化や情報の中で育ってきた友人との対話の中で参加者は、自らの価値観や育ってきた環境を相対化し、自らのアイデンティティを見つめ直します。本会議では、文化や歴史がどのように自らの価値観や意見を構成しているのかを考えると同時に、他地域との共通点や差異が、自己認識にどのような影響を及ぼしているのかについても議論を行いました。

複雑さの理解

アイデンティティという個人的な視点から日中関係を捉えることは、日中対立の複雑さを理解することにつながります。その対立の中にいる個人に目を向けることで「善 / 悪」「加害者 / 被害者」などの単純化された二項対立を疑うことができるからです。
異なる価値観を持つ者同士の分断が蔓延る現代社会において、対立する人を安易に責めるのではなく、対立の複雑さを理解する力を身につけることを目指しています。

運営計画

オーガナイザーは、日本チーム内で財務・広報・参加者対応といった役割を担うと同時に、会議に向けて各自がセッション作りや全体の運営を担当します。

オーガナイザー選考

オーガナイザーは本会議の過去参加者とUWC生からエッセイ、セッション作り、面接を通して選考しました。選考基準としては、本会議へかける情熱、財務や広報などの仕事をする能力の有無、実際の会議時にオーガナイザーとして参加者にどのように対応するか、セッションの運営能力などが挙げられます。面接には現役のオーガナイザー二人以上が参加し、最終的な結果は全体の話し合いによって決定されました。

参加者選考

参加者の選考は、書類選考と面接の2段階で実施しました。それぞれの選考では、担当者が採点後に全体で確認しながら合否を決定する形式を取り、全体の公平性を保ちました。

書類選考では、提出された日本語および英語のエッセイを基に、言語運用能力、論理的思考力、日中関係への関心、そして多面的な視点からの思考力など、会議に参加する上で必要と考えられるスキルを評価しました。

面接では、日本語と英語を用いて実際の言語能力を確認するとともに、本会議の求める人物像に沿っているかどうかを評価しました。その後、総合的な判断に基づいて合格者を決定しました。

運営スケジュール

10月
オーガナイザー選考

12月
各団体への助成金申請
広報活動

2月
会議企画 開始

4月
募集要項公開
セッション準備開始

5月
一次選考

6月
合格発表

7月
二次シミュレーション
参加者オリエンテーション

セッション準備

異なる地域から来る3-5人程度のオーガナイザーで協力し、それぞれのセッションの企画を行います。「参加者にどのようなメッセージを届けたいのか？」という問いを幾度も自問しながら、質の高いセッションを届けられるように努力しました。また、昨年度よりもさらに良いセッションを届けられるよう、昨年度同じセッションを担当した運営2年目が運営1年目を監督する形で企画を行いました。

また、政治情勢に対しては細心の注意を払いながら、セッション内容を構想しました。セッションの安全性を高めるため、UWC LPCの監督者とリージョナルコーディネーターと合同でのミーティングも行われ、セッション内容の推敲が行われました。

7月上旬にはオンラインで一次シミュレーションを行い、全てのセッションの内容を実際に再現し、他のオーガナイザーによるフィードバックを受ける機会を設けました。この内容をもとに議論を重ね、セッション内容を改善しました。

最後に、現地で３日間をかけて、二次シミュレーションを実施しました。実際に会議で使用する教室で、他のオーガナイザーを参加者に見立てながら、セッションを行いました。オーガナイザーからの活発な質疑応答やフィードバックを通して、セッション準備の最後の仕上げをすると同時に、ファシリテーションにあたっての疑問点の解消などを行いました。

参加者オリエンテーション

会議の約2週間前には、オンラインで参加者向けのオリエンテーションを開催しました。

オリエンテーションでは、参加者同士の交流を主な目的としたアイスブレイクを行うとともに、会議中に起こる可能性のある衝突・対立への対応について、実演を交えながら、参加者がディスカッションする機会を設けました。

家を離れ、初めて英語での環境に飛び込む参加者にとって、少しでも面識のある人がいることは会議序盤の参加者の心理的安全性を保つことに寄与すると考えています。

スケジュール

今年度は、7月23日から7月29日の7日間にかけて、本会議を実施しました。本会議は、4つのセッションと複数のアクティビティによって構成されています。
以下が今年度のスケジュールです。

	TUE. 23/7	WED. 24/7	THU. 25/7
8-9 AM		BREAKFAST	
9-10 AM		Tone Setting	Culture Session
10-11 AM		Identity Session	
11 AM -12 PM			
12-1 PM		LUNCH	
1-2 PM		Buddy Group Competition	Regional Meeting
2-3 PM			Final Event: Intro
3-4 PM			OC Talk (HK)
4-5 PM	Arrival	Cooking Activity: Intro	Dragon/Lion Dance
5-6 PM			
6-7 PM	DINNER		
7-8 PM	Opening	OC Talk (PRC)	Peacebuilding Session
8-9 PM	Icebreaking	Regional Meeting	
9-11 PM	Free Time / Lights Out		

	FRI. 26/7	SAT. 27/7	SUN. 28/7	MON. 29/7
8-9 AM	Breakfast			
9-10 AM	History Session	Hong Kong Day Out	OC Talk	Departure
10-11 AM			Regional Meeting	
11 AM -12 PM			Identity Reflection	
12-1 PM			Lunch	
1-2 PM	Regional Meeting		Final Event	
2-3 PM	OC Talk			
3-4 PM	Cooking Activity			
4-5 PM			Dragon / Lion Dance	
5-6 PM				
6-7 PM			Dinner	
7-8 PM	Final Event: Preparation		Closing Ceremony	
8-9 PM	Movie Night			
9-11 PM	Free Time / Lights Out			

プログラム内容

トーンセッティング / Tone Setting

今年度は新たに、会議のはじめに「トーン・セッティング」というセッションを設けました。4地域における政治情勢が複雑になる中、会議を通して参加者に求められる姿勢を明確にすることを目的としています。文化的背景も育った環境も異なる参加者が集う本会議において、参加者同士の対立を避けるためには、批判的思考と相互尊重に基づく態度が必要不可欠です。本セッションではトーン・セッティングを2つのパートに分け「メディアリテラシー」と「コンフリクトマネジメント」のそれぞれに関する参加者の基礎理解を図りました。さらに、本セッションは、講義形式だけではなく、バディ・グループの中で様々なゲームやディスカッションを実施することで、参加者は他地域からの参加者と交流する中で主体的に学ぶことができました。

メディアリテラシーでは、メディアの作者も読者も、それぞれの文化的背景に根ざしたバイアスや偏見をもっており、それが人々のミスコミュニケーションにつながることを、身近な例を紹介しながら学びました。会議の後半では、資料から得た情報をもとに議論を行うセッションもあり、本セッションはそれらのディスカッションの事前準備のような役割を果たしているとも言えます。

その後のコンフリクトマネジメントでは、はじめに基礎知識を提供した後、会議で実際に起こりうる対立や衝突の解決方法について参加者自身が話し合う機会を設けました。参加者が実際に対立を体験することで、会議において対立がどのように起こりうるのかを感じ、回避や対処に役立てることができるようにセッションを設計しました。

本会議をトーンセッティングから始めることによって、参加者同士の対立のリスクを減らすとともに、お互いを尊重しあう建設的な話し合いの場を生むことに貢献しました。

セッション

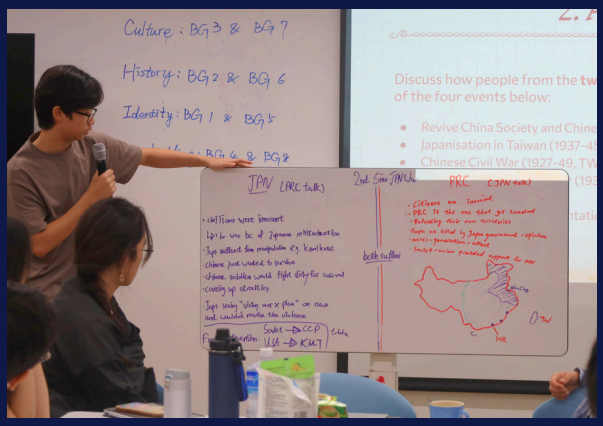
様々なアクティビティの中でも本会議の中核を担うのが、歴史、カルチャー、ピースビルディング、OCトークの四つのセッションです。今年度はセッションの意義を再考した上で、従来のメディアリテラシーセッションとコンフリクトマネジメントセッションを融合した、ピースビルディングセッションを新たに設置しました。それぞれが会議のテーマである「アイデンティティ」を主軸に、地域間に留まらず、個々の価値観や習慣に見える差異の根源を体系的に捉えられるよう設計されました。

歴史 / History

歴史セッションは、歴史的背景が一個人のアイデンティティや現在の文化にどのように影響を与えているかに焦点を当てて実施しました。

最初に、トーンセッティングの内容を再度確認し、異なる価値観を尊重する心理的に安全な場を作り出しました。
まず、異なる視点による歴史について考えるため、日中戦争について両地域からの参加者が互いに相手の立場に立って考え議論するアクティビティを行いました。また、他地域から影響を受けた歴史がどのように現在の文化（建築・言語・衣服・倫理観）を形成しているかを話し合うアクティビティを行いました。

これにより、参加者は歴史を学ぶことの重要性や歴史が現代文化や社会にどのように繋がっているのかを深く理解し、日中関係に対する自分なりのアプローチを学ぶことができたと考えています。



文化 / Culture

カルチャーセッションでは、日本、中国本土、香港、台湾の4つの文化について理解を深め、お互いの異なる価値観を共有することを目的として実施されました。

私たちは地域間のアイデンティティの違いに注目することが多いが、視点を変えることで、同じ東アジア出身としての多くの共通点を見出すことができるということを様々なアクティビティを通して伝えました。具体的には、各地域の食べ物の食べ比べや、各地域の高校の授業における相違点、共通点について話し合いました。

その後はステレオタイプについての講義の後、お互いへのステレオタイプを共有し、話し合いを交えながらステレオタイプが形成されていく過程について学びました。

このセッションを通して、異なる地域から来ていてもたくさんの共通点があること、自分が他人をどう見ているか、他人が自分をどう見ているかを考える大切さを参加者に知ってもらう機会を提供しました。

平和構築 / Peace Building

ピースビルディングセッションでは、平和構築という概念を身近に感じてもらうということを目的に、学問的理論や概念を実際のケースに落とし込んで考えることができるアクティビティを行いました。

今年のセッションでは、主な概念として、
1. 積極的平和、消極的平和
2. 平和学者ガルトゥングが提唱した理論
3. 移行期正義
の3つを紹介しました。

それに伴い、参加者へのチョコレートの分配を議論するアクティビティや都市開発をモデルケースとしたロールプレイアクティビティが行われました。最後には、実社会に見られる日中間の違いから生まれる対立の解決策をバディーグループで議論し発表するアクティビティを行いました。その際には、自己のアイデンティティと発表の題材とした対立の問題がどのように関連しているかを考えることを参加者に促し、会議全体のテーマであるアイデンティティについてより深く考える機会を平和構築の視点から提供することができました。

OCトーク / OC Talk

OCトークは、参加者に日本・中国本土・香港・台湾の文化や慣習について体験を通してカジュアルに学んでいただくという目的の元、各地域のオーガナイザーがそれぞれで決めた話題について、1時間のセッションを行うというものです。

日本チームは日本的な「美しさ」の概念について、中国本土チームは書道について、香港チームは香港の九龍地区とネオン文化について、台湾チームは台湾の性的マイノリティと映画産業について発表しました。各チームともに、書道の体験やポスター作りなどインタラクティブなアクティビティを織り交ぜながら、各地域の文化を深掘りして紹介しました。参加者は、楽しみながら他地域について理解を深めました。

日本チームのOCトークは、折り紙やお弁当を切り口に、日本の美を参加者に考えさせる内容で、特に折り紙体験は大いに盛り上がり、有意義な時間になりました。

テーマ「アイデンティティ」

アイデンティティセッション / Identity Session

本セッションでは、会議を通してアイデンティティを深掘りしていく中で必要となる思考の枠組みを提供することを目的としています。
まずはじめに、社会経済状況・文化的な影響・教育・家族環境等の様々な要素が個人のアイデンティティを形成することを学びました。アイデンティティが、性別や国籍に限定されない広い概念であることを理解し、参加者が自らの人生を新たな角度で振り返る様子が見られました。また、社会的アイデンティティ理論を紹介する中で、内集団バイアス差別や偏見につながることを理解し、日中関係においても同様の構図が見られないか議論する場面もありました。最後は、参加者の生まれ育った環境や文化が意見形成にもたらす影響を体験するアクティビティを行い、自らのアイデンティティに自覚的になることの重要性を感じることが出来ました。

他のセッションにおけるアイデンティティとの繋がり

今年度は、全てのセッションがテーマに沿って企画されました。

文化セッション

- 4地域の文化的アイデンティティの共通点と差異
- 内集団と外集団の区別によるステレオタイプの形成

歴史セッション

- 歴史が現在を生きる私たちの自己認識に与える影響
- 歴史が文化的アイデンティティの形成に果たす役割
- 異なるアイデンティティが歴史認識に与える影響

平和セッション

- 異なるアイデンティティを持つ私たちは、どのように日中関係において平和を築くことができるのか

アイデンティティ　リフレクション

会議の終盤に行われたアイデンティティリフレクションでは、参加者一人ひとりが会議を通して変化した自分と向き合いました。このアクティビティは、バディグループ内で蝋燭の火を囲みながら行われ、参加者同士が心を開き、互いに尊重し合う温かな空間が生まれました。事前に用意された質問に基づき、会議が行われた1週間の振り返りも交えながら、自己のアイデンティティが会議中にどのように変化し、その変化をもたらした要因について話し合いました。また、会議初日に提出した自己のアイデンティティや目標を書いたノートが返却され、この1週間で自己のどの部分が変化し、どの部分が変わらずに核として残ったかを確認する良い機会となりました。

参加者主体の学び

日中青年会議の各セッションは、通常オーガナイザーによって主導されますが、一貫した目的として参加者が常に会議の中心となることを目的の1つとして掲げています。そのため、多くのセッションには、バディーグループ規模でのアクティビティが沢山組み込まれているほか、ファイナルイベントと呼ばれる企画や準備、実行まで全て参加者の手によって行われるイベントも会議終盤には用意されています。

ファイナルイベント / Final Event

本イベントでは、本会議の各4つのセッションテーマ（アイデンティティ・歴史・文化・平和構築）に基づいて、各バディグループが20分のミニセッションを作りあげました。限られた時間の中での準備を簡単にするため、それぞれのセッションのテーマを紐解く問いを設定しました。例えば、平和構築であれば「アイデンティティはどのように対立の引き金となり、その終結をもたらすのか？」など本会議のテーマであるアイデンティティを軸とした問いを設定し、それに沿って参加者はミニセッションの内容を構想しました。

ある歴史セッションを担当したグループは、遣唐使をテーマとしたクイズアクティビティを行い、遣唐使が日中間の文化交流の側面を持っていたことに触れながら、他国との文化交流がそれぞれのアイデンティティ構築にどの程度寄与していたかを発表していました。

このイベントには、参加者にアウトプットの機会を提供するという側面もあり、他者に効率的かつ平和的にメッセージを伝える方法を学べるよう工夫されていました。参加者が企画や準備を進める際には、まずアクティビティの目的やセッションで伝えたいメッセージを明確にし、それを基にミニセッションを準備するよう促しました。しかし、このプロセスを十分に掘り下げられなかったグループは、終盤で少し苦労している様子が見受けられました。参加者にとって、自分が学んだことを他者に伝えるには、内容をしっかりと言語化し、一貫した目的を持つことが重要であると再認識する良い機会となったようです。また、会議を通じて「聴く側」にいた参加者が、「伝える側」として堂々と聴衆にプレゼンテーションを行う姿は、全員の大きな成長を象徴するものでした。

香港での文化体験

香港探索 / HK Outing

香港探索のアクティビティでは、香港出身のオーガナイザーの案内で香港の街を1日歩き、香港ならではの文化や空気感を直に体験しました。比較的郊外に位置するLPC UWCを離れて街の様子を感じる良い機会となりました。午前中は生憎の大雨で予定の変更を余儀なくされましたが、そんな中でも香港文化博物館で歴史的な背景と文化の繋がりを学んだり、観光名所であり香港のランドマークとも言えるヴィクトリア・ハーバー周辺で大都市・香港の雰囲気を体感したり、香港島の大館でイギリスの統治時代の香港の歴史を考えたりと、盛りだくさんの1日でした。また、昼ごはんには香港出身のオーガナイザーが選んだお店でローカルフードをいただき、食文化も楽しむことができました。４つのグループに分かれて1日を共にしたため、より他の参加者やオーガナイザーと交流を深めることができた、という参加者も多くいました。

獅子舞、竜舞 / Lion, Dragon Dance

獅子舞、竜舞は、中国本土や香港、台湾の旧正月に披露される伝統的な踊りで、煌びやかな衣装と躍動感たっぷりの動きに特徴づけられます。ライオンダンスは2人、ドラゴンダンスは7〜10人が1組となり、息を合わせて技を展開します。本会議では、全参加者が片方のダンスを選択し、LPCのクラブコーチと生徒主導のもと基本の振り付けを学びました。閉会式では選抜者が実際の衣装を着てパフォーマンスをし、練習の成果を発揮しました。多くの参加者がアクロバット的要素の多さに苦戦しながらも、仲間や講師とのコミュニケーションや反復練習を通し、短時間で著しい成長を遂げました。
本体験を経て異文化への親近感が高まっただけでなく、仲間と協力して一つの物事を作り上げる貴重な経験ができたという声が多く聞かれました。

コミュニティ

他地域の参加者との交流を促進し、参加者が一週間、快適に安全に過ごせるようなコミュニティ形成を心がけました。このコミュニティを通し、参加者からは他の参加者と親密な関係を築き、絆を深められたという声をたくさんいただきました。このコミュニティは会議中、参加者の心の支えになりました。

Buddy Group

バディグループとはセッションでのディスカッションなどのを行うグループのことです。1つのグループには4地域すべての参加者が6人いるのが基本です。これは参加者がセッションのディスカッションで新しい視点を知り、学べるようにするため、参加者が安心できる居場所を作るためにバディグループを設けています。

会議中の一週間、バディグループでたくさんの時間を過ごすため、会議の初めの方にある、バディグループ大会を通してメンバー同士の仲を深めます。この大会ではスカベンジャーハント、ディベート、クイズの３つの部門を他のバディグループと競い、一番ポイント数が高かったバディグループは表彰され、各地域からの景品が渡されました。参加者はメンバー同士でたくさんコミュニケーションをとり、協力しながらポイントを獲得しようと頑張っており、この大会を通してバディグループの仲が一層深まりました。

地域別ミーティング / Regional Meeting

参加者にとっての居場所を提供するため、同じ地域の参加者と運営が一つの部屋に集まり、母国語で話し合う地域ミーティングを数回行いました。具体的な内容としては、参加者のメンタルヘルスチェック、セッションの振り返り、閉会式で行われる地域ごとのパフォーマンスに向けた準備など多岐に渡ります。

初めて英語でコミュニケーションをとる参加者も少なくなく、参加者にとって必要なメンタルヘルスサポートを提供する場となっています。参加者の多くが、この地域ミーティングを通じて、自分の考えや悩みを安心して打ち明けられたと話しており、その重要性を裏付けています。

寮生活 / Dorm Life

部屋割りでは、4つの異なる地域からの4名が1つの部屋に宿泊することを基本としており、参加者が他地域の参加者と交流する機会をなるべく多く設けるようにしています。また、同じバディグループのメンバーを避けた部屋割りを行い、参加者がより多くの人と交流することで経験の幅を広げることを目指しました。また、同室に運営を1人入れることで、バディグループ以外の参加者にとっても安全な空間と安心感を確保しました。

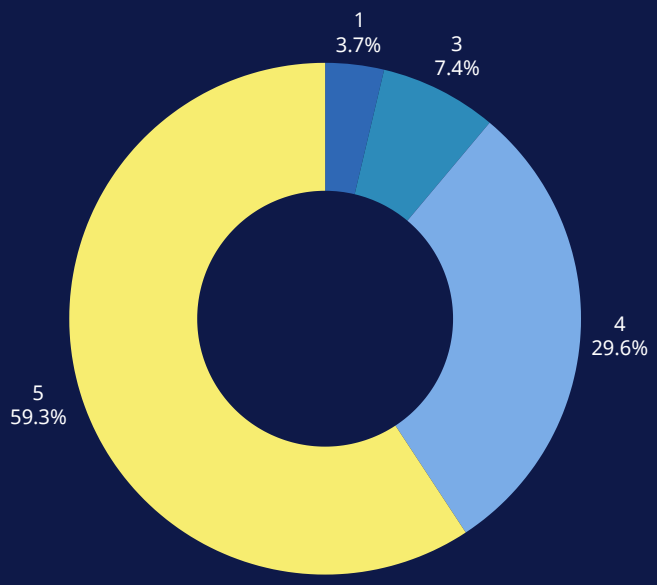
さらに本会議では、学術的なセッションだけでなく、参加者が新たな友人との絆を深めるための自由時間や映画鑑賞会なども豊富に設けました。共通の言語で他の参加者と自由に交流するだけでなく、セッション外の場でも学びや議論を促進することで、参加者の中に今までとは違った学びの火種が生まれ、より広い視野を持つことができるようになります。

料理セッション / Cooking Session

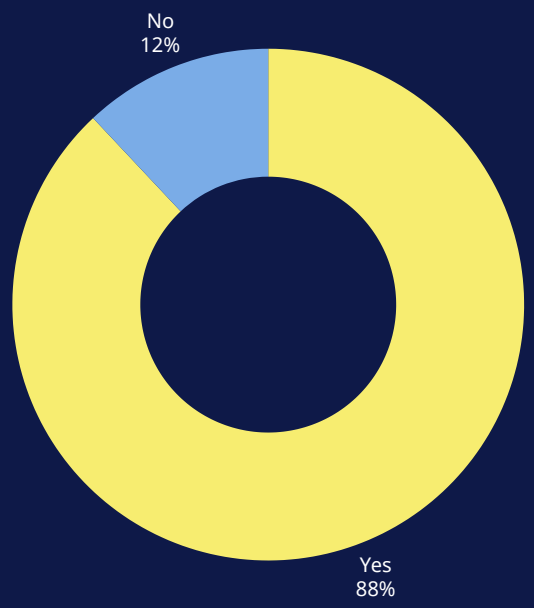
各地域の食文化を体験すること、参加者同士の絆を深めることを目的として、バディ・グループごとに４地域の料理を作りました。それぞれのグループごとに何を作るかを考えるところから始まり、調理器具を分配し、近くのスーパーマーケットに買い物に行き、実際に料理をしました。料理が出来上がって試食の時間になると、台湾のプリン、香港のマンゴーサゴ、日本の抹茶シュークリームや大学芋など、さまざまな料理が並び、参加者はバディ・グループごとに作った料理の紹介を行いながら自分の地域の料理との相違点・類似点を発見するなど、楽しみながら食文化を体験することができました。また、バディ・グループの仲間との共同作業を通じて、より交流を深めることができたという声も多く聞かれました。
アレルギーや火の扱い、片付けなどにも配慮し、安全にセッションを終えることができました。

アンケート

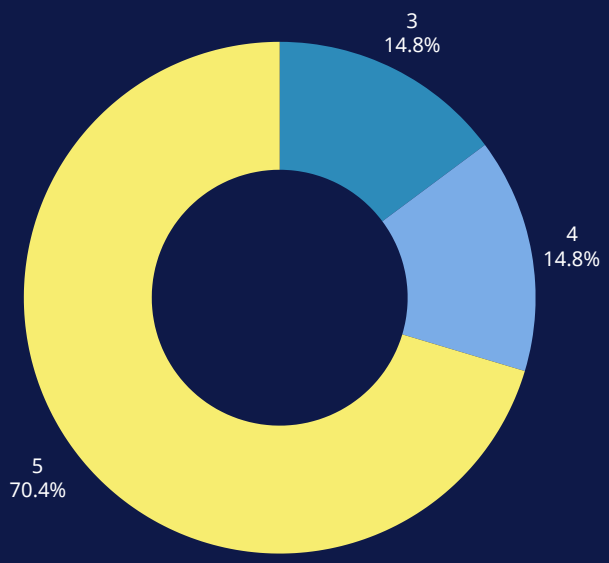
会議の全体的な満足度は？
（1…とても不満、 5…とても満足）



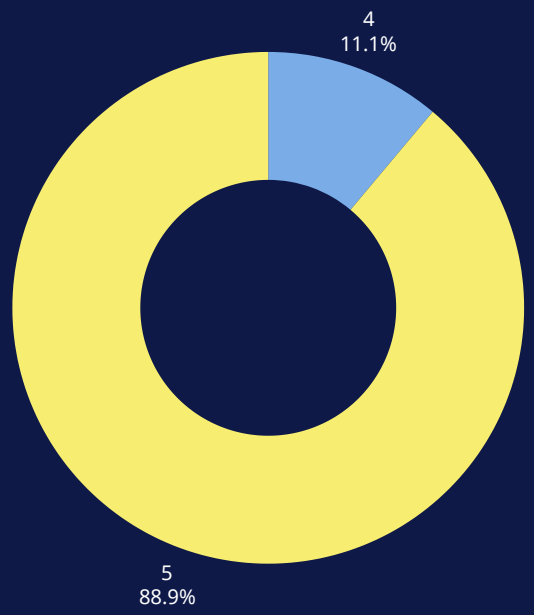
他の参加者と十分に交流できましたか？



オーガナイザーは話しかけやすかったですか？
（1…強く反対、 5…強く賛成）



また会議に参加したいですか？
（1…全くそう思わない、 5…とてもそう思う）



参加者の声 ーこの会議での一番大きな学びは何でしたか？ー

One important thing that I learned is that **achieving peace in society requires not only understanding environments different from our own but also having a deep knowledge of our own country.** (.....) The theme for this year was 'Identity,' a topic that holds significant personal importance for me. As a Japanese individual who grew up in an international background, **this conference questioned my Japanese identity** and has also strengthened my desire to further gain more knowledge of Japan and be able to share it with other individuals from different countries around the world in order to achieve a more peaceful society. （18歳・日本チーム）

I was able to **realize that I unconsciously had stereotypes towards people from other countries**, and overcome them. Through interacting with many participants using the same language, I was able to feel **how we are all different, but not due to our nationality but due to our individual characteristics**. （17歳・日本チーム）

To understand people from different culture, friendship can be the first step.（16歳・日本チーム）

立場や価値観の大きく違う相手に物事を訴えかけたいとき、話の中身も大切だけど、**伝え方や言い回しが大切になってくる**と思った。（18歳・日本チーム）

Distance does not separate real friendship. （15歳・香港チーム）

収支報告

収入の部

参加費		740,000
	参加費5万14名	700,000
	参加費2万2名	40,000
財団助成金		450,000
	双日国際交流財団	350,000
	東華教育文化交流財団	100,000
自己資金（前年度繰越金）		616,987
計		**1,806,987**

支出の部

運営費		64,129
	広告費	9,900
	Google workspace + Google domain	52,389
	印刷費	480
	通信費	1,360
奨学金		30,000
滞在費		741,033
交通費		762,959
雑費		4,854
来年度予算		204,012
計		**1,806,987**

奨学金について

今年度の会議では、金銭的補助が必要な参加者を対象とした奨学金（給付型）を新設しました。地方出身者や低所得層にも門戸を開き、機会の公平性を確保するための試みです。奨学金は香港への渡航費を含め8万円を上限とし、家計状況や申請理由等を包括的に考慮した上で決定され、計19万円を4名に配給しました。支援してくださる財団の皆様のお陰で本件が実現できたこと、感謝申し上げます。

おわりに

皆様のご支援とご協力を賜り、2024年度日中青年会議を無事に終了することができました。自らのコンフォートゾーンを抜け出し、1週間という限られた時間の中で目覚ましい成長を遂げる参加者の姿を目にし、この会議の意義を改めて実感いたしました。

学生主体で運営される会議であるため、例年、会議に必要な人材、資金、場所を確保することが運営委員の大きな挑戦となります。そのような中で、第16回会議を成功裡に終了することができましたのも、ひとえに皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。

次年度以降も、より安全で質の高い会議を提供できるよう、さらなるプログラムの向上を目指し、委員会一同全力を尽くして準備を進めてまいります。改めまして、長きにわたりご支援、ご協力をいただきました皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。今後とも、日中青年会議を何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年度日中青年会議委員会一同

発行・運営：2024年度 日中青年会議委員会

協力団体：

公益財団法人 双日国際交流財団

公益財団法人東華教育文化交流財団

UWC LI PO CHUN UNITED WORLD COLLEGE OF HONG KONG